

《標準臨床検査学》

生理検査学・画像検査学

矢富 裕, 横田 浩充 シリーズ監修/谷口 信行 編

『生理検査学・画像検査学』における必読書となる一冊

徳大大学院教授・生体機能解析学

齋 藤 憲

本書は臨床検査技師を目指す学生向けに書かれた教科書「標準臨床検査学シリーズ」の改訂第1弾であり、『生理検査学・画像検査学』で学習する広範な生理系検査学領域の内容が「臨床検査技師国家試験出題基準(平成23年度版)」に基づき、系統的に要領よくまとめられている。

今回の改訂では、各章の始めに「学習のポイント」、各項目の始めに「本項を理解するためのキーワード」が箇条書きにされており、「サイドメモ」も利用して本文中の専門用語の平易な解説を行うなど、多岐に渡る『生理検査学・画像検査学』の検査内容が無理なく学習できるような工夫が随所にみられている。また、より鮮明となった多色刷り印刷(2色刷り、一部カラー印刷)の効果も加わり、前版に比べて非常に読みやすくなったというのが本書を一読したときの第一印象である。

しかし、今回の改訂で最も注目すべきところは、単なる書式の変更や図表の配置の工夫ではなく、生理検査の現状を見据えた本書の大胆な内容の改訂や更新にある。従来の教科書は、国家試験などに対する配慮からか、基礎的・基本的な記述が多く、臨地実習などに携帯しても、現場で改めて教科書を開く機会はありませんでした。本書は、現場で直接検査に携わる人たちに執筆を依頼し、検査技術の取得や個々の検査の臨床的意義について考えることができるように配慮されているのが特徴である。例えば、心臓超音波検査法に関する記述は、従来の形態診断学的な内容から、ドプラ法を利用した心機能の評価まで多岐にわたり、改訂版全体のページ数が10ページ以上も減っている

にもかかわらず、その内容が3倍余りに充実している。

さらに、私の専門とする循環器系機能検査の領域では、脈波伝播速度(pulse wave velocity; PWV)や足関節上腕血圧比(ankle brachial pressure index; ABPI)、血管内皮機能検査(flow mediated dilatation; FMD)などの動脈硬化外来で行われているアンチエイジング検査やホルター心電図検査の項目が、また呼吸機能検査領域では睡眠時無呼吸症候群の診断を目的とした終夜睡眠ポリグラフィ(polysomnography; PSG)検査などの項目が新たに追加されており、日々進歩する新しい生理検査の担い手を目指す臨床検査技師の養成に重点を置いた「標準臨床検査学シリーズ」の出版に対する監修・編集者の方々の熱い思いがはっきりと伝わってくる。

本書は従来の教科書と比較すると少し高度であり臨床的な内容も含まれており、臨床検査技師国家試験合格を目指す学生のみならず、研究マインドをもって大学院進学を目指す学生の育成をも視野に入れた『生理検査学・画像検査学』の必読書といえる。



●B5 頁328 2012年
定価4,830円
(本体4,600円+税5%)
[ISBN978-4-260-01418-2]
医学書院刊(☎03-3817-5657)